

令和4年度 第5回有田工業高等学校 学校運営協議会（学校魅力強化委員会）会議録

「佐賀県立学校における学校運営協議会の運営に関する要綱」第8条第2項に基づき、次のとおり、第5回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）の会議録等を公表します。

【期 日】 令和5年2月14日（火） 15：00～17：00

【場 所】 佐賀県立有田工業高等学校 会議室

【出席者】 学校運営協議会委員 12名（欠席者2名）

※ 佐賀県教育委員会規則第13号第7条第2項により、委員の過半数の出席により会議の開催は成立する。

本校事務局教職員 11名（欠席者3名）

参加者 教育振興課2名、学校魅力化アドバイザー

【会議の内容】 以下のとおり。（全体の司会は、主幹教諭）

1 開 会 （司会・主幹教諭より）

2 会長挨拶

今回は第5回ということで、これまでいろいろな議論を重ねて参りまして、委員のいろいろなご意見が当然あると思う。

後で報告あると思うが、懸念事項でもあった「地域みらい留学」制度で、特別選抜で出願があって、今日合格発表があって、合格者が出て、有田工業高校に4月から入学してくれるといううれしい報告があると思う。これ自体がこの委員会の中の1つの大きな要点だと思っていたので、非常にうれしい。それを踏まえて今度どのように地域の中でしっかり位置づけていただけるのかということを検討していきたいと思うので、よろしく願いしたい。

3 学校長挨拶

年が明けて一月半、年度末まで一月半というところであるが、本日はお忙しい中、この協議会に御参加いただき、感謝している。前は急遽、欠席をさせていただいたが、後で第4回協議会の様子を聞き、委員の皆様の質問に生徒もしっかり答えてくれて、非常に実り多い協議会だったということを知っている。

本校の大きなイベントの一つとして、九州陶磁文化館をお借りして、卒業制作展を行った。私も佐賀県内の高校の教員を長くしており、有田工業高校が卒業制作展を行っていることは知っていたが、これまで佐賀市に勤務校もあった関係で、なかなか見に行く機会がなかった。今回、本校の卒業制作展を見て、自分の学校を褒めるのもなんだが、これほどまでにレベルが高いということに改めて認識をしたところである。本校の特色ある教育活動、それから、生徒や教職員の頑張りを再確認したところである。委員の皆様にも、実際に御覧になられての感想等をいただき、本当にありがたいと思っている。

それから御手元に冊子がある「有工ふるさと検定」も、SAGA コラボレーション・スクール指定があるから始めたというのではなく、第16回ということで、以前からこのような地域と密着し

たような取組をやっている。SAGA コラボレーション・スクール指定校として学校運営協議会を始めることによって、今回、委員の皆様から掲載する問題をいただいている。また、御覧になって、こういう問題もという御意見もいただけたらと思っている。

それから、先ほど会長様からも紹介があったが、本日 13 時に特別選抜入試の合格者の発表をした。特別選抜入試で本校をチャレンジしようと思ってくれる生徒が 88 名もいてくれたということで、県内の県立学校の中で最も多い人数を迎え入れて、特別選抜入試を行った。「地域みらい留学」で 5 名の志願者があった。

佐賀新聞社様にも、小見出しで、本校が一番倍率が高かったということを書いていただいていた。これは、本校を希望してくれている中学 3 年生が多かったということを広く知ってもらえる機会になったと思っている。88 名受検をしてもらい、今日の特別選抜入試の段階で合格者が決まっている生徒は 40 名ということで、48 名が残念ながらという結果になったが、また一般入試のほうで再チャレンジをしてくれることを期待しているところである。「地域みらい留学」のほうでは、かなり早い段階から本校に興味を示してくれていた生徒や保護者さんもいた一方で、秋ごろになって「地域みらい留学」制度があるということを知って興味を示していただいて、実際に卒業制作展や課題研究発表会の様子を見て、本校で学んでみたいという思いを強くされて受検を考えてくれた生徒もいて、見事合格をしてくれた。非常にうれしく思っている。5 名の内訳は、セラミック科が 4 名、デザイン科が 1 名である。一般選抜でも受検する生徒がいるのではないかとと思っている。

今日は限られた時間ではあるが、たくさんの報告事項や協議事項等もあり、実りある会議になればと思っている。よろしくお願ひしたい。

4 報告事項（進行：会長）

（1）学校評価・最終評価、学校評価アンケートの結果【全日制】

（教頭より）P.3～P.6

- ・今年度の目標は、新学習指導要領に対応した教員の授業力向上、学習評価の工夫、生徒の主体的な学び、SAGA コラボレーション・スクール重点校として学校の魅力発信の強化、全国募集の促進と志願者増をあげていた。自己評価の A のところは概ね、目標達成している。
- ・評価項目の学力向上のところの B という評価について。
学習時間が生徒および保護者のアンケートからも不足している。1 月時点で平均は 7.1 で目標値は達成したものの、昨年度比の 5%減で、目標の 20%減とは、幾分か離れている。生徒たちの意識調査でも自宅での学習とか、授業のそのほかに習慣的に学習しているかということが低い評価になっている。
- ・心の教育という評価項目の中で、豊かな心を育む教育活動の実施について、図書の貸し出し数が前年度比よりも 9%減であった。評価を B としている。
- ・評価項目の中で、業務改善、教職員の働き方改革の推進について、有給休暇の取得 13 日以上、前年比 1%増という目標を上げていた。昨年度末 3 月に春の甲子園、今年度は夏の甲子園出場があり、職員は休暇がとりやすい時期に多忙になり、年休取得ができていないので、C という評価にしている。
- ・本年度の重点的取組、独自評価のところで、SAGA コラボレーション・スクール重点校として、この協議会を立ち上げ、今回で第 5 回目を開いている。学校の魅力発信の強化、地域みらい留学を通じた全国募集の推進ということで、目標 5 名と挙げていたが、実際に入学試験を受検し、合

格に至っている。

- ・県外からの体験入学者 15 名以上の目標について、デザイン・セラミック科の体験入学につきましては 17 名の参加者が出ている。特別選抜の志願者も 40 名定員に 88 名と非常に多くなって、これも P R 活動や、委員の皆様の御協力のおかげと思っている。
- ・生徒・保護者・教職員のアンケート調査 (P.4～6) について。
- ・生徒アンケート (P.4) のグラフで、習慣的な学習やテスト対策などができるかというところが落ち込んでいる。ここを上げられないのかというところが今後の課題である。また、スクールカウンセラーの利用、読書、資格取得というところが生徒たちの意識調査では落ち込んでいる。
- ・保護者アンケート (P.5) について。子供の家庭学習・学習時間のところが非常に落ち込んでいる。自宅での学習等が今後の課題になってくると思われる。
- ・職員アンケート (P.6) について。時間外の削減目標で、週 1 回の定時退勤に努めているか、積極的な年休消化に努めているかというところが、努力がいま一つで、意識改革がなかなか進んでいかない。

(教務：教務主任より) P.7

- ・出席率を毎年出しているが、今年度の 1 月末時点で 98% (昨年度は 98.5%) である。2・3 年生については皆勤率も出席率も高い。1 年生で若干、欠席者数が多い。出席停止の日数はコロナの関係で増えている。
- ・本校は非常に学校が大好きな生徒が多いというところを見ていただけるように、出席率について意識を高めていかなければいけないと思っている。皆勤者数については資料のとおりである。
- ・基礎力テストについて、1 月当初から 12 月末までの数字で出している。各教科からの課題は毎日出されるわけではないので、このような基礎力テストを週に 1 回することで、学習習慣を身につけて、勉強に対する意識を高めていきたい。

(進路指導：進路指導主事より) P.8～P.9

- ・2 月 10 日現在での数字で、内定・合格状況について。本年度は 3 年生が 151 名いるが、例年 3 割が進学・7 割が就職というのは変わらない。就職については 12 月の段階で全員、就職内定をいただいた。進学について、四年制大学を受験する生徒が多く、昨年度は 14 名であった。今年は 1 クラス減にもかかわらず、これから受験の生徒も含めると 19 名が四年制大学を目指している。最後まで全員が進路決定できるよう、進路でも支援しているところである。
- ・求人票については、現在もまだ来ている。求人企業数は少しずつ増えており 1257 社、求人数としては 2129 人で、いまだに 2 次募集で生徒が欲しいという電話もある。また、来年度の求人をお願いしたいという連絡も早速来ている。令和元年度の数にかなり近まっている程、企業の求人数は増えている。また、I T 関係の企業や、企業立地で伊万里が多い。本社は東京だが、佐賀県に支社を置いて、地元で高卒の生徒を雇いたいという企業も結構多くなってきている。具体的な進路先は P.9 に示している。
- ・2 月・3 月には 2 年生 (新 3 年生) に向けて、就職試験対策で SPI 試験の練習をする。また、3 月の末には、本校に県内企業を 30 社お呼びして、生徒たちにいろいろな企業の説明を聞いてもらって、進路につなげるという事業も進めていく予定である。

(生徒指導部) P.10～P.11

- ・本年度の指導概要として、主に、生活指導、身だしなみ指導、SNS や携帯電話等の指導、交通マナー、問題行動について指導を行っている。

- ・いじめ体罰対策拡大委員会でも報告したが、本校では、いじめアンケートを年間3回、担任による長期休業明けの面談などを行いながら、未然防止、早期発見、早期対応に努めている。
- ・本年度、本校が「自転車マナーアップモデル校」に指定され、11月にスタントマンによる交通事故の再現をグラウンドで行ったので、紹介する。また、制服のマイナーチェンジということで、パンツスタイルの導入、女子の新しいデザインなどを紹介している。

(工務・情報部：M科主任・D科主任)

- ・各種検定試験の結果について掲載している。
過去3年間の受験者数分の合格数をR2・R3・R4年度について示している。技能士については先日行われたばかりで入っていない。生徒たちは意欲的に資格に挑戦している。そのなかでも、電気主任技術者三種という資格があり、今年度は3人中1名合格した。これは超難関の資格で、高校生が合格するのは難しいが、電気科3年生の生徒が合格した。外に、横断幕も掲げられており、快挙だったと思う。単純に合格率がいいものもあるが、難しい資格もあるので、一概に合格率の%だけでは判断できないと思われる。
- ・ジュニアマイスター顕彰制度について P.13
全国工業高校校長協会主催で、難易度の高い資格がポイントが高いものとなる。1番高いポイントが45ポイント以上でゴールド、シルバーが30ポイント、ブロンズが20ポイントということで、この3段階に分けて、表彰制度がある。これについては、過去5年間の推移を数字・グラフに示している。今年度は、ゴールドが4名、シルバーが11名、ブロンズが34名で、昨年度の数値と比較するとほぼ同じであるが、今年度は機械科が1クラス減なので、その中で同等の成果を出している。資格に対しても、生徒が意欲的に挑戦し、このような結果を出してくれた。
- ・卒業制作展のアンケート集計結果について P.14
今年度は第54回を迎え、11月17日からの1週間の日程で、九州陶磁文化館で行われた。コロナ禍で入場者数について心配していたが、来場者数は1000人を超えた。アンケートについて、QRコードを使って携帯電話からの入力、もしくは紙で回収した。アンケートで上位作品について各科で票数が多かった作品について記載している。1年間の集大成ということで、3年生もよく頑張ってくれた。

(保健部) P.15

- ・資料に掲載のとおり、講演会や講座等では、外部の専門家を活用して行っている。

(生徒会) P.16

- ・5月の生徒総会、7月のクラスマッチ、夏の甲子園、体育祭、文化祭、生徒会長選挙、花いっぱい運動など、活発に取り組んでいる。
- ・部活動の実績一覧について、P.17に運動部、P.18に文化部の活動報告を掲載している。

(2) 学校評価・最終評価、学校評価アンケートの結果【定時制】 P.19～

(教務主任)

- ・中学校時代に不登校であった生徒もいるが、にもかかわらず、定時制での出席率は90%以上であり、定時制の存在意義を感じる。
- ・進路については、8名中2名が就職で、4名が進学、未定の2名も専門学校進学の手配である。
- ・健康な体づくりについて、体調管理が大切なので、生徒は毎日の生活チェック表をつけており、担任が確認している。

- ・定時制では聴講生制度がある。それぞれ定員が7名である。セラミック科は定時制とは別の授業であるが、デザイン科は定時制の生徒の授業に入って受講されている。

(3) 学校関係者評価に係る意見聴取

- (委員1) 定時制の生活体験発表での生徒たちの言葉、定時制の魅力を感じる。また、他校とは違い、有工では全定の教室が一緒に、聴講生もある。先生方も交流しているところも魅力の1つであり、地域みらい留学にもよい繋がりになるのではないかと。
- (委員2) 学校評価アンケートの教職員の働き方改革について、時間外勤務時間の削減を目指して、週1回の定時退勤推進の啓発に努めているということであるが、部活動の超過などで、Cという評価で、アンケートでは2.46となっている。まず、職員がゆとりをもつことが生徒のよりよい教育に繋がるのではないかと。
- (委員3) ここを改善しないと、子供たちに向けたよいサービスができないのではないかと。経済学の立場でもそう考えるので、まずは教職員がゆとりを持って、子供たちの教育にあたっていただきたい。
- (委員4) 他県の学校だが、防寒着の着用についてのニュースをインターネットで見た。インフルエンザにかかって防寒着を着てきたが、校則だからと脱がされたという話だった。防寒着については、有工としてはどのように考えているのかと思った。最近のニュースでもあるように、校則の見直しなど、時代の変化に応じて、いろいろなことについて瞬時に応えていくということが大事だと思う。
- (委員5) 基礎学力向上について、習慣的な学習については、情報の伝え方を考えれば、保護者の満足度が上がるのではないかと。保護者として、自分の子どもがどれくらい勉強しているのを問われても仕事をしていると確認できないので、やっているか分からない。ただ単に、学習時間だけを見ていいものか、効率性も考えないといけない。
- (委員3) 資格等では生徒も高い満足度があるし、保護者の評価も高く認めているので、来年度は、アンケート⑩は削除してもいいかもしれない。保護者、生徒への伝え方等を柔軟に考えてはどうか。

5 協議事項 「地域みらい留学」について

(1) 「地域みらい留学」制度について (学校魅力化アドバイザーより) → (別紙資料にて)

①自己紹介

②地域みらい留学についての概要

地域側から見た時の受け入れ環境整備 (心身に関する健康面でサポート、留学生同士、地域住民とのコミュニケーションでのサポート) について

③事例提供 : 山形県立遊佐高等学校、島根県立情報科学高等学校、愛媛県立長浜高等学校、島根県立吉賀高等学校、島根県立横田高等学校

(2) 第4回会議等の質疑に関する回答 (教育振興課より)

第3回学校運営協議会における検討事項について、教育振興課より回答をいただいた。

①定時制の給食について

文科省に問い合わせた結果、法律上は問題ないが、国の補助金を使っていると原則不可である。現段階では難しい。お弁当の提供について、調理するのは困難である。勤務時間や利

用者の数でコストパフォーマンスの部分で難しい。

②環境受け入れ整備について

佐賀県ではスポーツ寮があるが、民間委託で、県の知事部局管轄である。〇〇高校は〇〇部のOBがアパートを作り、〇〇部の保護者が寮監をしているという事例はある。

③町との連携について

次年度の住まいの確保について、地域で協力してくれないだろうか、という進め方もある。町のほうでも町民ともつながりの場を作っていただければありがたい。地域との関わりは欠かせないので協議していきたい。

【質疑】

(委員1) 地域みらい留学の生徒たちは4月には入学してくる。定時制も生徒数が少ないので、給食での問題点については、県費負担などでいけるのではとか、その可能性を考えてほしい。また、定時制との交流もできるし、幅広い視野で進められるのではないか。

(委員6) 佐世保市にて「町の学食」の事例がある。有田でも町の食堂の働きかけができるのではないか。

(委員7) 有田の料飲店組合を活かして、サブスクを検討するのはどうか。月ごとに利用する楽しみも考えられる。一度相談してみてもどうか。

(3) 「地域みらい留学」に関する生徒アンケート(12月実施・自由記述)の紹介(主幹教諭)

【質疑】

(委員4) 生徒の回答数はどれくらいか。

(主幹教諭) 学校評価アンケートと同時期に行っているので、全校生徒が対象である。

(委員2) 町の補助金の対象は、県内の生徒は対象にならないのか。県外流出を防ぐこともできるのではないか。

(まちづくり課) 保護者が県外にいる場合に限る。県内の場合は、今のところ補助対象外となる。

(委員4) 今回の「地域みらい留学」制度で来る生徒達はどこから来るのか。

(校長) 個人情報の問題があるので、大まかに説明すると、関東から3名、有田より田舎から2名の生徒が入学する予定である。

(会長) 地域がどのように子どもたちを迎え入れていくのかを考えるうえで、この協議会の意や重要性もあるのではないかと考える。

6 その他

(1) 資料について(主幹教諭)

- ・「先輩から卒業生へ」手紙配布のお願い(別紙)⇒灯す屋様より紹介いただく。
→灯すラボについての紹介。有田に戻ってきても面白い人生を送ることができる!
- ・ARIKO コミュニティ・スクール通信第9号
- ・「有工ふるさと検定」冊子の配布について

7 諸連絡(主幹教諭) 次回、第6回会議 3月15日(水)に開催予定

8 閉会

【委員】（敬称略：五十音順）

- 岩井 章（有田観光協会 専務理事）
- 岩楯愛久美（本校デザイン科卒業生）
- 小嶋 貴之（有田町立有田中学校 校長）
- 佐々木元康（特定非営利活動法人 灯す屋 代表理事）
- 竹田 英司（長崎県立大学 地域創造学部実践経済学科 准教授）
- 土井 輝（有田町まちづくり課 副課長）
- 徳永 隆信（徳永陶磁器株式会社（幸楽窯）代表取締役、有田ロータリークラブ会員）
- 中野 星次（佐賀新聞社メディア局次長兼コンテンツ部長）
- 中村 隆敏（佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授）
- 西山美穂子（キッキングランマ 代表、地域住民）
- 原田 好和（（有）アトラス 代表取締役、同窓会副会長）
- 深川 祐次（株式会社香蘭社 代表取締役社長、有田町商工会議所 会頭）
- 安元 孝史（全日制 PTA 会長）
- 山崎 哲也（佐賀県立有田工業高等学校 校長）

【事務局】

- 馬場 光弘（全日制 教頭）
- 吉田 芳克（定時制 教頭）
- 橋本 剛（事務長）
- 中西 美香（主幹教諭、SAGA コラボレーション・スクール担当）
- 原 慎一（教務主任（全日制））
- 野田 和弘（教務主任（定時制））
- 池上千代香（進路指導主事（全日制））
- 澤山 大亮（セラミック科主任（全日制））
- 森永 昌樹（デザイン科主任（全日制））
- 吉武 吉隆（機械科主任（全日制））
- 山田 成仙（電気科主任（全日制））
- 吉永 伸裕（地域みらい留学担当）
- 馬場 美帆（事務担当）

※ 学校運営協議会については、全日制・定時制合同で設置する。

※ SAGA コラボレーション・スクール（SCS）重点校指定は、全日制が対象である。